

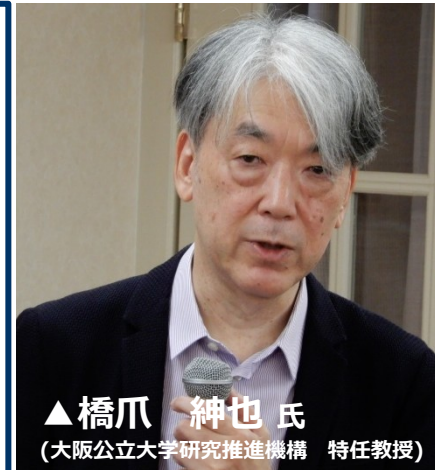
「関西のインフラ強化を進める会」開催報告

(一社)近畿建設協会

近畿建設協会では公益事業の一環として、第28回委員会「関西のインフラ強化を進める会」を2026年9月1日に大阪キャッスルホテルにおいて開催しました。今回は、大阪公立大学研究推進機構 特任教授 橋爪 氏、国土交通省近畿地方整備局 統括防災官 川尻 氏に、「北丹後地震から100年～地域の記録と未来への備え～」、「近畿地方整備局における防災対策 ～近年の地震災害に学ぶ南海トラフ地震への備え～」をテーマに、ご講演いただきました。

委員名簿 (R8.8.26時点)

委員長	小林 潔司	京都大学経営管理大学院 特任教授
委員	池田 豊人	香川県 知事・(公社)土木学会 理事
委員	石原 洋	近畿地方整備局 副局長(港湾)
委員	井戸 智樹	(一社)世界文化遺産地域連携会議 世話役
委員	井上 智夫	西日本旅客鉄道(株) 建設工事事務 技術顧問
委員	上村 多恵子	京南倉庫(株) 代表取締役社長
委員	小河 保之	(株)URリンクージ 西日本支社 参与
委員	神田 彰	(公社)関西経済連合会 理事
委員	岸田 英嗣	関西広域連合 本部事務局長
委員	後藤 貞二	西日本高速道路(株) 代表取締役副社長執行役員
委員	小林 賢太郎	近畿地方整備局長
委員	佐藤 樹一郎	大分県 知事
委員	佐藤 道彦	大阪公立大学 客員教授
委員	清水 喜代志	西日本旅客鉄道(株) 建設工事事務 技術顧問
委員	正司 健一	国立大学法人神戸大学 名誉教授
委員	田井東 一宏	産経新聞大阪本社 事業開発室長
委員	多田 稔子	(一社)田辺市熊野ツーリズムビューロー 会長
委員	田中 清剛	(公財)都市活力研究所 顧問
委員	東川 直正	阪神高速道路(株) 取締役兼常務執行役員
委員	中貝 宗治	(一社)豊岡アートアクション 理事長
委員	長崎 敏志	近畿運輸局長
委員	橋爪 紳也	大阪公立大学研究推進機構 特任教授
委員	藤本 貴也	JAPIC 国土・未来プロジェクト研究会 委員長
委員	武藤 浩	京都大学公共政策大学院 特別教授
委員	森岡 武一	大阪府 副知事
委員	山田 忠史	京都大学経営管理大学院 院長・教授
委員	若林 陽介	公益財団法人 交通エコロジー・モビリティ財団 理事長
事務局	谷本 光司	(一社)近畿建設協会 理事長
事務局	白水 靖郎	(一社)建設コンサルタンツ協会 近畿支部長



▲橋爪 紳也 氏
(大阪公立大学研究推進機構 特任教授)



▲川尻 竜也 氏
(国土交通省 近畿地方整備局 統括防災官)

第28回委員会 議事次第

◆基調講演 I

「北丹後地震から100年～地域の記録と未来への備え～」

大阪公立大学研究推進機構 特任教授 橋爪 紳也 氏

◆基調講演 II

「近畿地方整備局における防災対策

～近年の地震災害に学ぶ南海トラフ地震への備え～」

国土交通省 近畿地方整備局 統括防災官 川尻 竜也 氏

第29回委員会「関西のインフラ強化を進める会」

日時：2026年12月22日(火) 16:30～18:30

場所：大阪キャッスルホテル 7F

「関西のインフラ強化を進める会」 開催報告

交通分野に焦点、回廊型TODなど意見交換

関西のインフラ強化を進める会会合

国や自治体、経済界、学識者ら関西の産学官が連携し、経済活動や防災・減災対策、観光振興に不可欠なインフラ整備を考える「関西のインフラ強化を進める会」（委員長・小林潔司京都大学経営管理大学院特任教授）は8日、大阪市内で第27回会合を開いた＝写真。今回は空港、港湾、交通分野に焦点を当て、講演と意見交換を行った。

「港湾・空港分野における

コンテナ貨物を取り巻く世界的な動向と国内の状況、大型化が進むバルク貨物船の状況を紹介した上で、港湾・空港施設の老朽化と強靱化に向けた中期計画などを説明した。

阪急電鉄顧問の上村正美北大阪急行電鉄会長は「回廊型TODで描く関西の未来」北大阪急行延伸・千里ニュータウン・広域交通ネットワークの統合戦略」をテーマに講演。上村氏は「交通インフラの本質は時間短縮ではなく、移動の価値をどう評価するかにある」と強調した。

千里と泉北の二つのニュー

るインフラメンテナンスと国土強靱化の取り組み」をテーマに講演した元国土交通事務次官の武藤浩氏は、



ータウン再生や、新大阪の戦略的な整備の重要性に触れた後、「回廊型TOD（公共交通指向型都市開発）は、駅前開発の理論ではなく、交通軸から都市圏全体を再編する実践理論だ。関西のインフラ強化は、単独の拠点ではなく、都市機能と交通機能を一体化した回廊形成として設計するべきだ」と訴えた。

最後に小林委員長は「人口減少の中、地方のバス路線なども縮小している。都市や移動の在り方を、新しい視点で見直す必要があるかもしれない」と締めくくった。